

KAWASAKI MEDICAL SCHOOL

川崎医科大学学報

2021 July

vol. 134



川崎医科大学

令和3年7月15日発行 / 川崎医科大学 TEL:086-462-1111

丹波から生坂・松島，そして日本で最も うつくしい村・新庄村へ

衛生学
教授
大槻 剛巳



丹波・福知山の盆踊りの唄は「福知山音頭」，お土産物の「踊りせんべい」にその歌詞が刷られています。♪ 明智光秀 丹波をひろめ ひろめ丹波の 福知山 ♪大河ドラマ「麒麟がくる」では，本編で福知山は出てこなかったのですが，最終2回，本編終了後の「紀行」で，福知山城や福知山音頭の映像が流れました。私も夏の長期休暇で帰省していた頃によく行った，花火大会と盆踊りの時に屋台が連なる御霊神社も映っていました。誕生が福知山，勤務医だった父の仕事で5歳から10歳までは丹波・舞鶴で育ち，小学4年生時に父が福知山で開業したので故郷に戻りました。中学では陸上部で100mハードルの選手として府大会で2位になり，地理クラブで企業や市役所の取材に出向き，さらにKBS近畿放送のAMラジオの深夜番組でリスナーの歌詞をプロデューサーが作曲してMCが歌うという企画に採用されました。15の春，川崎医科大学附属高校入学で生坂の地に来ました。その5月，NHKで「あなたのメロディー」という番組があって，選出されて中学同級生（女子）の歌詞と私の作曲の楽曲を，プロのアレンジャーと歌手でTV放送されました（大学1年でも同じコンビで出演）。高3の夏にはヤマハポピュラーソングコンテスト（以下ポプコン）の譜面の部に応募し全国大会でデビュー前の庄野真代さんが歌ってくれました。大学3年から松島の地。岡山の人たちとバンドを組んで，楽器店勤務の方が閉店後のスタジオで練習できるとのことで，当時，月曜日の朝一番で講義末試験が多かったのに日曜夜毎に練習に行っていました。ポプコンでは関西決勝大会では常連になってヤマハ神戸の方に気に入っていただき，ヤマハからデビュー

する女性歌手のアルバム候補曲や神戸の女性ロックバンドの楽曲依頼などを受けたりしていました。大学院の頃には，学部学生さんたちと一緒にバンドを組んで軽音楽部のコンサートに，平成20年にも学生さんと一緒にバンドで学祭に出場，どちらも勢いに乗ってCDを作りました。そうそう平成8年には，岡山県文学選奨の現代詩部門で選外佳作になり冊子「岡山の文学」に掲載されました（図書館にあります）。平成21年から（現在も継続中）ネットラジオのMCを始めました。事前録音の番組を，我々が「編集長」と呼んでいる方に届けると，私の番組「雲心月性」は毎月中旬10日から19日の配信です。「camnet」で検索してください。最近はトークとともに，大槻がサブスクでリリースしている5枚のアルバム（この記事の頃には6枚目も出てるかも）と1曲のシングルからの楽曲を紹介しています。サブスクでフルネーム「大槻剛巳」で検索してください。平成27年にストリート・ダンス部と一緒に作ったオリジナル曲のPV「K.M.S.」は大学オリエンテーションなどでも流していただいてアクセス1万回以上です。そして，令和3年4月から，岡山県真庭郡新庄村に村営の診療所があり，村に一人の医師として働くことになりました。新庄村は人口が910人前後で，がいせん桜とひめの餅，森林セラピー基地などが有名であり，「日本で最もうつくしい村」というキャッチコピーがついています。これまで本業への向き合い方は甚だ疑問だったのですが，今になって，医業に専心したいと思っております。このような自分を学びの場から勤務の場へと長年育ててくださった川崎学園には感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

【略歴】

昭和56年 川崎医科大学卒業，同 附属病院内科 研修医
昭和58年 同 内科血液部門 臨床助手
昭和60年 同 大学院医学研究科血球生化学入学
昭和61年 東京大学医科学研究所病態薬理学国内留学
平成元年 医学博士号取得，同 内科血液部門 臨床助手
平成3年 同 講師
平成4年 ミネソタ大学血液内科 リサーチスカラー

平成5年 米国国立癌研究所病理研究室血液病理部門 訪問フェロー
平成7年 同 訪問アソシエイト
平成8年 川崎医科大学衛生学 講師
平成9年 同 助教授
平成15年 同 教授
令和3年 新庄村国民健康保険診療所 内科医師

第4代学長 望月義夫先生を偲んで



(略 歴)

昭和24年 3月	岡山医科大学卒業
昭和29年10月 1日	岡山大学医学部講師
昭和31年12月 1日	岡山大学医学部助教授
昭和47年 4月 1日	川崎医科大学衛生学教授
昭和53年10月 1日	川崎医科大学副学長
平成元年 4月 1日	川崎医科大学学長
平成 7年 4月 1日	川崎医科大学現代医学教育博物館館長

平成 7年 4月 1日	川崎医科大学 名誉教授
-------------	-------------

昭和61年 4月 1日	川崎医療短期大学学長
平成 7年 4月 1日	川崎医療短期大学学長
平成13年 4月 1日	川崎医療短期大学顧問

(受 賞)

昭和54年10月 1日	岡山労働基準局長功績賞
昭和62年10月 1日	労働大臣功績賞
平成元年10月26日	科学技術庁長官賞
平成12年11月 3日	勲三等旭日中綬章受章

令和3年3月12日ご逝去 享年95

心よりご冥福をお祈りいたします

第4代学長 望月義夫先生を偲んで

追悼：川崎医科大学 第4代学長 名誉教授 故 望月義夫先生

学長 福永 仁夫

元学長、名誉教授の望月義夫先生が令和3年3月12日にご逝去されました。

川崎医科大学を代表して追悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り致します。

望月先生は、1972年に本学衛生学教室の初代教授にご就任後、学生部長、副学長を歴任され、1989年から6年間川崎医科大学学長として、本学の教育・研究の発展に尽力されました。特に学生には、使命感・自主性・独創性を培う教育体制を確立され、「患者さんに優しい、人間性の豊かで信頼がおける「良医」の養成」を目指されました。特に、教員と学生の人間的なつながりを大切にされており、創設者の川崎祐宣先生が「建学の理念」で示された、医師として的人格形成や研修制度の確立などを継続されるとともに、常に新しい視点に立ってリーダーシップを発揮されていたことを、当時の教員の一人として実感しております。

望月先生のこれらの教育における功績は目覚ましいものがあり、本学から医学教育に造詣の深い多彩な指導者を輩出しております。

そして、1995年7月20日、21日には、望月先生は大会長、勝村達喜附属病院長を副大会長、山下貢司副学長を実行委員長に、「人間社会と調和のある医学教育」を基調テーマとして、第27回日本医学教育学会総会及び大会（会場：川崎医療福祉大学、現代医学教育博物館）を主宰されました。そして、学会の基調テーマについて、記述されており（医学教育26：1、1995）、それを以下に引用します。

「医科大学における教育の主な目的は、これからの医学・医療の進歩と、それを取り巻く人間社会の変化とニーズに対応できる良医の養成である。・・・医師として必要な倫理感、

態度、習慣を会得するための人間教育が大切である。」「人間社会から要求される医療に、対応できる良医の養成を目指して努力している。」と記載しておられます。このお考えは、昨年創立50周年を迎えた学園の想いである、「かわらぬ思い、このさきも」と通じるものであり、川崎祐宣先生から明徳学園長、誠治理事長、また教職員に広く継承されています。

望月先生の、教授会と保護者会での様子を懐かしく思い出します。教授会では、その温厚なお人柄で教員に真摯に丁寧な、そして、冷静で科学的に対応されることに敬服することが多く、また、万人が納得できるお話をされることが特徴でした。

望月先生は、緻密で明晰な分析力と判断力をもって、核実験に伴う放射性同位元素（主として¹³¹I）による環境汚染と人体への影響などを研究されました。一方、¹³¹Iは甲状腺へ摂取され、そのβ線放出により甲状腺癌やBasedow病の治療に用いられています。¹³¹Iの甲状腺への摂取経路、被曝量の推定は、現在の甲状腺核医学の基礎になる大きな研究成果と思われまます。

また、望月先生は、行政面においても労働安全衛生、産業衛生、勤労者の衛生管理・健康保全、環境問題改善、労働条件の整備など、正に「生命を衛る（衛生）」観点から取り組み、その功績により労働大臣功績賞、科学技術庁長官賞を授与されています。

さらに、2000年には、教育面、研究業績、行政面においての幅広い多くの業績から叙勲を受けておられます。

望月先生の本学に対する深い想いと医学教育・人材育成に対する確固たる信念に感謝し、ご生前を偲びつつ追悼の小文と致します。

望月義夫先生ご逝去の報に接して

衛生学 第2代教授 植木 絢子

去る令和3年3月12日、望月義夫先生ご逝去の報に接しました。心から哀悼の意を表すものでございます。

先生は川崎医科大学衛生学教室を創設され、主任教授としてご活躍の他、川崎医療短期大学学長、次いで川崎医科大学学長として、その誠実なお人柄で、力を発揮されたことは周知の通りであります。

私個人は、川崎医科大学実験病理学講師でありました時、衛生学教室に移籍させていただき、ご指導いただきましたことを心より感謝致して居ります。

最初の打合せの時、

「研究テーマを如何致しましょうか」

と申し上げたところ、

「アスベストなどは、どうですか」

とのご指示をいただき、今まで全く関与が無かったものの、展望の開けそうなテーマであると感じ、以後今日に至る迄の数十年間、私の主要な研究テーマであり続けました。

先生は、あまり個人的なおつき合いを好まなかった様に思いますが、奥様の属される教会の集いに誘っていただいたり、私共の属する教会の催しに、奥様がお越し下さったこともありました。

又、先生ご夫妻は二人のご令息を心をこめて教育されて居られましたが、今はお二人とも立派な社会人になられ、ご満足されていらっしゃるかと存じます。

二年前程、川崎医科大学附属病院の外來で、車椅子に乗った先生と、傍らに立つ奥様にお会いしました。その時のお二人の、輝く様な明るい笑顔が、強く印象に残っております。

お別れは悲しいことですが、先生のご逝去とは、地上でのお務めを終えられ、みごとな「完結」であると畏敬の念をもって受け止めさせていただいております。

望月義夫先生、ゆっくりとお休みください。有難うございました。

遷ろう時が記憶をいざなう

衛生学 第3代教授 大槻 剛巳

岡山県内では新型コロナウイルス感染症の第3波が少し落ち着きを見せていた2021年3月、私は月末の退職の準備で少し気持ちが落ち着かない日々を過ごしていました。そのような時、初代本学衛生学の教授、そして、学長としても大学の変遷期に存分にお力を発揮されていた望月義夫先生の訃報が届いたのでした。

私が本学の学生であった1975～1981年頃、先生は衛生学教室の教授でいらっしゃいました（1978年からは副学長とのことでしたが、当時、衛生学の授業は3学年でしたので、私が聴講していた頃は学長補佐をお務めだったのでしょうね）。授業は丁寧で、また衛生学の領域は広範な生命科学の知識とともに、公害など環境からの健康障害などを考える上では人間愛に根差した洞察が不可欠なのですが、そういった幅広い内容を網羅的に、さらに肌理細かに授業されていたこと、今でも鮮明に蘇ります。

1989年から学長をお務めの間、私は大学院を卒業した1989年度から、3年間本学内科学（血液）に在籍させていただき、その後1992年からは留学に出ました。この間、血液内科医としては本学での自家末梢血幹細胞移植などの準備にも力を注いでいたことを思い出しつつ、また、悪性腫瘍疾患の症例への告知についても個人的に努力していた時期で、その頃大学のトップとして許容していただいていたことを、改めて感謝とともに尊敬の念を禁じ得ません。

1996年度に縁があって衛生学教室に所属することになりました。当時の教授は、望月先生の後継となられた植木絢子先生でした。私も1997年度から助教授に昇任させていただき1999年に手作り同門会誌を作成しました。望月先生には「巻頭言」とともに「ご略歴」も掲載させていただき（滋賀県甲賀郡宮村の宮尋常高等小学校から、県立膳所中学（旧制）、さらに金沢の四高理科乙類（旧制）、そして岡山医科大学（旧制）と進まれた頃が年譜では戦時中です）、そして「衛生学教室事始め」と題した記事も頂戴しました。これらは、私が在職中の教室HP（今は<https://ug-to.com>の「沿革」サイトで継続してご覧いただけます）に紹介しておりました。

その中には、本学にご赴任されるまでは、1965年から放射線医学総合研究所でご研究をなさっていたのですが、そこでの研究については施設面から断念されて、以下の環境汚染物質の生体への影響を開始されたとありました。ここに引用いたします。

1. 無機汚染物質の生体への影響：(1) 重金属類（鉛、カドミウム、水銀化合物）のラット甲状腺機能あるいは補体系への影響 (2) ヒト母体血および臍帯血中鉛濃度とデルタ・アミノレブリン酸脱水酵素との関係
2. 有機環境汚染物質の生体への影響：塩化ジフェニル（PCB）、ベンゼン、四塩化炭素などの甲状腺機能あるいは免疫系におよぼす影響
3. 生活関連物質の生体への影響：合成洗剤

また、ご略歴の中から、1979年に岡山労働基準局長から、そして1986年には労働大臣からの功績賞を受賞、1989年には科学技術庁長官賞の受賞の榮譽に輝かれ、日本衛生学会の名誉会員、科学技術庁放射線医学総合研究所人材育成開発評議会委員（議長）、県の環境放射線等測定技術委員会委員（議長）、県環境放射線専門家会議委員なども歴任なさっています。1995年には第27回日本医学教育学会大会会長もお務めになられたそうです。

その後、幾度か教室の節目となる時に、ささやかな食事会などでお会いしました。いつまでも紳士でいらっしゃって、教壇に立たれていたお姿のままでした。そして、当時、3代目として教室を預かることとなっていた私にも、暖かく優しいお言葉をかけてくださいました。また私が2019年の春まで社会医学系専門医協会の理事を務めていた時に、ご子息も社会医学の途に進まれ、多くの会議でご一緒させていただいたことも、不思議なご縁を感じております。

学生時代からもう半世紀近く、遷ろう時がいざなう記憶は益々鮮やかさを増して、そしてご逝去された後も、当時の紳士で真摯で、穏やかさの中に一本筋の通った姿勢を崩されない高貴さの記憶が昇華していくばかりです。改めてご冥福をお祈りするとともに、自らの進む途でいざなわれる記憶を糧にしていきたいと感じます。

望月先生、本当にありがとうございました。



植木絢子先生ご退任時の集まりにて
（前列中央：望月先生・植木先生、後列左から2番目：大槻先生）

名誉教授称号記授与式

3月29日（月）、理事長室応接室にて医科大学名誉教授称号記授与式が執り行われ、衛生学の大槻 剛巳教授、小児科学の尾内 一信教授に名誉教授の称号記が授与されました。

大槻教授は附属高校入学から川崎学園への通算在籍期間が50年を迎えられ、その間種々の役職を歴任されました。その中でも産学官連携担当としてKMSメディカルアーケ（産学官連携展示会）の企画・運営により、医療機器開発の発展に寄与されました。

尾内教授はご着任後、教室員の増員に尽力され、院長補佐としても病院の運営に多大なる貢献をいただきました。また、昨年発生した新型コロナウイルス感染症への対応においては、学園の新型コロナウイルス感染症対策本部長としてご尽力いただいています。

川崎誠治理事長と福永仁夫学長から、長年にわたり本学の教育・研究の分野において多大な貢献をされたことに対する感謝の意が述べられた後、束の間ではありましたが、和やかに懇談し授与式を終えました。名誉教授の方々の今後のご活躍を祈念いたします。



大槻 剛巳教授



尾内 一信教授